

インドネシア水道に係る情報収集 No. 190105-5J

検索サイト	Google	実施日	2019/01/05	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア の 水」で検索					
URL: https://www.kyoto-bhutan.org/pdf/Himalayan/019/Himalayan-19-082.pdf					
<p>標題: インドネシア共和国パプア州ソロバ村の河川・湧水の水質調査</p> <p style="text-align: center;">太田守洋 琉球大学 技術補佐員</p> <p style="text-align: center;">ヒマラヤ学誌 No.19, 82-87, 2018</p>					
<p>内容: (抜粋)</p> <p>インドネシア共和国パプア州ソロバ村における医学学術調査は高知医大（現：高知大学医学部）アジア・僻地医療を支援する会とフィールド医学研究会、京都大学のチームを中心に行われ、1999年から衛生指導や医療支援などと共に行われている。住民のライフスタイルなど様々な情報収集がされ、その結果が報告されているが、住民が飲料水・生活用水として利用している川の水質についてはこれまで報告がない。この水質調査は、住民が飲んでいる水への生活污水や豚などの排泄物混入を懸念して実施したものである。滞在期間：2017年3月12日から18日； 滞在場所：インドネシア共和国・パプア州ワメナ市近郊ダニ族集落ソロバ村、ニューギニア島西側中央部 高地</p> <p>まとめ(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックテストに記載された評価目安と比べ、リン酸態リン測定値が高めであったため汚染の可能性が心配されたが、今回の結果からは近隣および上流での汚染の可能性は低いと考えられる。 ・ヒトの利用可能な陸水については昔から調査研究されてきたテーマであり、水環境はヒトの生活とともに変化していくためこれからも継続していかなければいけないテーマである。 ・ソロバ村をはじめニューギニア島中央部においても文明が入ってきたことによる河川環境の変化、飲料水が住民の健康にどう影響しているかなど本格的な水質調査が必要だと考える。 					
備考 日本機関による現地の水質調査としては最近のものです。					